

研究講演会 & 交流会



非麻醉下

エーテル麻醉下

学内外の交流を図るべく、北見工大の陽川先生をお招きして植物の麻醉に関する大変興味深い講演をしていただいた後に、学内で懇親会を行いますので、多くの皆様に御参加いただければ幸いです。

植物を用いた麻醉研究からわかること — 麻醉のふしぎ

講師

陽川 憲 先生（北見工業大学）

日時

2024年 11月 18日（月） 17:00～18:30

* 18時30分頃～ 懇親会、8階会議室にて（会費:1000円）

場所

講義棟2階 第4講義室

対象

講演会のみ、懇親会からでも、どなたでも御参加いただけます
（教員、医師、院生、学部生を問いません）

講演要旨：植物に麻醉をかけるとどうなるのだろうか？植物は動物のように素早く動かないので麻醉にかかっているかどうかを判別することが容易ではない。しかし、オジギソウや食虫植物のハエトリグサは葉の一部に接触刺激を与えると、葉を即座に閉じることが知られている。これらの植物は麻醉によって動かなくなることが知られている。我々のグループでは電気生理学手法や顕微鏡観察などを駆使し、麻醉にかかっている植物内では活動電位が消失し、細胞内小胞輸送が停止していることを発見した[Yokawa et al. 2018 Ann Bot]。また、植物に特有の現象である種子の発芽や葉緑素の生合成も全身麻醉薬により抑制されることも報告している。植物を麻醉研究に用いるアドバンテージは、生きたままの細胞・組織の観察が容易なことである。今回、植物を用いた麻醉研究の結果を踏まえながら、麻醉という薬剤の不思議を共有したい。さらに園芸や農芸分野への応用など、麻醉分子の医療目的以外への使用の可能性についての展望と取り組みも紹介する。

問い合わせ

矢澤（生化学講座） yazawa@asahikawa-med.ac.jp